



Vol. 72

CONTENTS

【コラム】アナログからデジタルへ… 中川 圭介

【解説】学習指導要領の改訂と共通教科情報科 … 鹿野 利春

【解説】看護師養成課程で導入が始まっている電子書籍配信サービス… 田中 雅章

COLUMN

アナログからデジタルへ



2000年に大学を定年になったあと2008年に開館されたUECコミュニケーションミュージアムでボランティアとなり、アナログからデジタルへという表札のついた展示室で、オーディオ、ビデオ、ラジオ受信機、コンピュータの技術の歴史の展示を担当しています。たとえば、オーディオはエジソンのシリンダーレコードからCDまでの音を実際に聞くことができるなど、アナログの世界の展示が優勢です。

最近まで高等学校の教科情報の1科目が必修修になっていることを知らずにいましたが、情報という教科を知るために、まず現在の教科書「情報の科学」と「社会と情報」を読みました。教科書はそれぞれ約180ページで、情報に関連のある広い範囲の内容で構成されていますが、予想していなかったことは問題解決という言葉が多くの内容に入っていたことで、時代の変化を感じています。

その一方で、多くの項目を含む科目全体を先生方はどのような時間割り当てで授業をしているかに興味があります。基本科目などを含むほかの授業を受けながら高校生はどのように学習するのでしょうか。また実習は何時間どのように受けるのかも知りたいと思っています。さらに、英語、数学などの勉強のように、紙と鉛筆だけでプログラムを作ったり解析をしたりする高校生はどのくらいいるのでしょうか。

学習指導要領を読むと、やはり情報は独立した教科になっています。また情報の科学の4つの内容のうち2つが「問題解決とコンピュータの活用」と「情報の管理と問題解決」です。細かい印象は教科書のときとあまり変わりませんが、全体にデジタルの世界です。ただ説明の各項目の最後が、……させる、で終わっているのが気になり、もう少し高校生たちが主体であるような書き方もあるのではないかと感じています。

教科書には現在の情報技術の全体像がよく描かれていますが、さらにコンピュータに直接関連した過去の大きな発明・発見をもう少し詳しく、また現在進行中の新しい問題についても適切な方法で補うなど、高校生を啓発することは大切であると思います。

以前ミュージアムで所蔵品の説明を書くときに中学の理科の教科書を読みましたが、これからは高校の情報の教科書を展示室に備えることになりそうです。

中川圭介（電気通信大学）